

## 日本法科学技術学会誌執筆要領

1. 投稿原稿は、和文、英文いずれでもよい。和文は、A4判用紙に縦長横書きで作成する。英文は、A4判用紙にダブルスペースで印刷する。
2. 原稿第1頁(表紙)の最上欄には、希望審査分野(法生物学、法薬毒物学、法化学、法工学、法文書、法心理学、現場鑑識科学)を明記し、ついで原著、技術報告、速報、ノート、事例報告、総説の別を記載する。表題・著者名・所属機関およびその所在地を和英両文で併記する。論文内容を端的に表現する **Running Head** (和文は30字以内、英文は60字以内)を記入する。また、校正刷りの宛先、別刷の部数を朱書する。頁番号は、表紙を含めて1頁から始めて、英文抄録、英文抄録の和訳、本文、表、図まで通し番号とする。また、投稿原稿の各頁に行番号を表示する。
3. 原稿第2頁は、英文抄録(原著、総説および技術報告300語以内、速報、ノートおよび事例報告200語以内)キーワード5個以内を **Abstract** と **Key words** : という見出し語を付けて記載する。
4. 本文の中で、章・節の見出しは中揃えとし、小見出しなどは左揃えとする。章・節の見出しの上下は1行あける。本文は、原則として緒言 (**Introduction**)、材料および方法 (**Materials and Methods**)、結果 (**Results**)、考察 (**Discussion**)、謝辞 (**Acknowledgment**)、文献 (**References**) の順序とし、その後表 (**Tables**) および図 (**Figures**) を付ける。ただし、速報および事例報告はこの限りではない。
5. 数字は、原則としてアラビア数字とし、単位記号は原則として国際単位系 (SI) を用いることが望ましいが、国際的に慣用されている記号、符号を用いることとする。  
〔例〕 長さ :  $10^{-9}$  m は nm  
体積 :  $10^{-6}$  m<sup>3</sup> は ml または cm<sup>3</sup>  
時間 : h, min  
濃度 : 1 l 中の mol 数は M
6. 数式は、原則として、 $\frac{a}{b}$ ,  $\frac{a+b}{c+d}$  のように記し、本文中に出てくる場合は、a/b, (a+b)/(c+d) のように1行に記載することとする。
7. 本文中に文献を引用する際には姓のみとし、著者が2名以内のときは、2名の名を「と」または「and」でつなぎ、3名以上のときは、最初の1名の名の後ろに「ら」または「*et al.*」を付ける。文献の参照は番号で示し、上付きの小数字で表し、その最後に小さい) を付ける。例 <sup>3)</sup>, <sup>3,7)</sup>, <sup>3-8)</sup>。
8. 文献は、引用順に番号を付け、次の例のように記載する。

## 雑誌

- 1) Comey, C. T., Budowle, B., Adams, D. E., Baumstark, A. L., Lindsey, J. A. and Presley, L. A. : PCR amplification and typing of the HLADQ $\alpha$  gene in forensic samples. *J. Forensic Sci.*, **38**, 239-249 (1993).
- 2) 戸川祐子, 大森 毅, 田中 謙, 井上堯子: 新しい覚せい剤類緑化合メタカチノンおよびカチノンの分析. 科警研報告, **47**, 77-84 (1994) .

## 単行本

- 3) De Forest, P. R., Gaensslen, R. E. and Lee, H. C. : *Forensic Science, An Introduction to Criminalistics*. pp.85-112, McGraw-Hill, New York (1983) .
  - 4) Rhine, J. S. : *Facial Reproduction in Court*. In *Human Identification* (Eds. Rathbun, T. A. and Buikstra, J. E.), pp.357 – 362, Charles C. Thomas, Springfield, IL (1984) .
  - 5) 瀬田季茂, 吉野峰生: *白骨死体の鑑定*. pp.153-278, 令文社, 東京 (1990) .
9. 表は, 1 頁に 1 つとし, 和英両論文ともに英文で記載する. 表には縦罫線を使用せず, 各語句の始めは, 原則として大文字とする. 脚注を要するときは, 表示の語句の右肩に a) , b) , c) を付記し, 表の下欄外にそれぞれの説明を記す.
  10. 図 (写真を含む) はそのまま製版, 印刷ができるものとする. 図は, 横幅 80 mm 以下, それでは小さすぎる場合は 170 mm 以下とする. 図は, 1 頁に 1 つとし, 図の下部には図の番号, 各図の表題および説明を英文で記載する.
  11. 表, 図の挿入位置は, 本文の右欄外に指示し, また, 本文中に引用する表, 図は **Table 1, Fig. 1** などと記載する.
  12. 著者による[論文チェックリスト \(様式 1\)](#)に基づき, 投稿原稿が各項の内容を満たしているかなどのチェックを行い, 投稿時に本リストを原稿と共に提出すること. なお同リストについては, 審査結果を受けて作成した改訂原稿提出時にも提出すること.

平成 17 年 2 月 1 日改正 (名称変更)

平成 22 年 1 月 31 日改正

平成 23 年 5 月 9 日改正